

25th Anniversary Exhibition

開館25周年  
Idemitsu Museum of Arts, Moji  
25th Anniversary

# Hand • Painted Ukiyo-e

— The Competition among Moronobu, Shunshō, Hokusai and Others

2025

4/12 (土)

5/25 (日)

開館25周年記念

## 肉筆浮世絵

師宣・春章・北斎たちの筆くらべ

出品リスト

出光美術館 門司  
Idemitsu Museum of Arts, Moji

# 出品リスト

- ・目録の順番は陳列の順番と必ずしも一致しません。
- ・出品作品はすべて出光美術館蔵です。
- ・国名（日本）は省略しています。

No.	作品名	員数	作者	時代	技法	寸法
<b>第1章 憂世から浮世へ — 菱川師宣と宮川長春</b>						
1	桜下弾弦図屏風	二曲一隻	不詳	江戸時代（17世紀）	紙本金地着色	166.4×172.0
2	春秋遊楽図屏風（右隻） 重要美術品	六曲一双 のうち	菱川師平（生没年不詳）	江戸時代（18世紀）	紙本着色	79.1×244.0
3	花鳥・物語画帖	一帖	伝 菱川師宣（?-1694）	江戸時代（17世紀）	絹本着色	各図 29.9×25.7
4	桜下酒宴図	一幅	古山（菱川）師重 （1684-1704）	江戸時代（17世紀）	紙本着色	34.4×45.4
5	二美人図	一幅	伝 菱川師宣（?-1694）	江戸時代（17世紀）	絹本着色	39.5×57.3
6	蚊帳美人図	一幅	宮川長春（1682-1752）	江戸時代（18世紀）	紙本着色	43.2×62.4
7	立姿美人図	一幅	宮川長春（1682-1752）	江戸時代（18世紀）	絹本着色	85.2×30.8
8	立姿美人図	一幅	懐月堂安度（生没年不詳）	江戸時代（18世紀）	紙本着色	110.8×48.6
9	文使い図	一幅	奥村政信（1686-1764）	江戸時代（18世紀）	絹本着色	82.0×43.6
<b>第2章 俗中の雅 — 勝川春章と鳥文斎栄之</b>						
10	桜下三美人図	一幅	勝川春章（1743-92）	江戸時代（18世紀）	絹本着色	97.2×34.6
11	二美人図	一幅	勝川春章（1743-92）	江戸時代（18世紀）	絹本着色	100.2×35.0
12	二美人図	一幅	鳥文斎栄之（1756-1829）	江戸時代（19世紀）	絹本着色	92.2×31.9
13	遊女と禿図	一幅	酒井抱一（1761-1828）	天明7年（1787）	絹本着色	71.8×33.4
<b>第3章 爛熟のとき — 葛飾北斎と歌川広重</b>						
14	鍾馗騎獅図	一幅	葛飾北斎（1760-1849）	弘化元年（1844）	紙本着色	118.0×57.8
15	春秋山水図	一幅	葛飾北斎（1760-1849）	天保10年（1839）	絹本着色	各 70.5×27.5

No.	作品名	員数	作者	時代	技法	寸法
16	春秋美人図	対幅	葛飾北斎 (1760-1849)	江戸時代 (19世紀)	絹本着色	各 83.0×33.8
17	朝妻舟図	一幅	蹄斎北馬 (1771-1844)	江戸時代 (19世紀)	絹本着色	97.3×32.2
18	芸妓と嫖客図	一幅	歌川豊春 (1735-1814)	江戸時代 (18世紀)	絹本着色	44.1×58.2
19	御殿山観桜美人図	一幅	歌川豊広 (1765-1829)	江戸時代 (19世紀)	紙本着色	126.9×54.3
20	煙管をもつ美人図	一幅	歌川広重 (1797-1858)	江戸時代 (19世紀)	紙本着色	87.7×33.0
21	亀と蟹図	一面	葛飾北斎 (1760-1849)	江戸時代 (19世紀)	紙本墨画淡彩	16.3×43.0
22	桜下花魁図扇面	一面	歌川国貞 (1786-1864)	江戸時代 (19世紀)	紙本着色	19.3×50.5
23	十二か月風俗図扇面画帖	一帖	英一珪 (1747?-1844)・ 歌川国貞 (1786-1864)	天保6年 (1835)	紙本着色	各 18.4×50.4
24	春秋美人図	対幅	歌川国貞 (1786-1864)	江戸時代 (19世紀)	絹本着色	各 23.2×29.7

#### 第4章 掌中の〈悪所〉

25	歌舞伎・花鳥図屏風	六曲一双	狩野派	江戸時代 (17世紀)	紙本金地着色	表/各 35.3×136.4 裏/各 41.2×141.6
26	遊里風俗図巻	一卷	菱川師宣 (?-1694)	寛文12年 (1672)	絹本着色	31.6×88.0
27	江戸風俗図巻	二巻	菱川師宣 (?-1694)	江戸時代 (17世紀)	絹本着色	上巻/34.4×423.3 下巻/34.4×419.0
28	中村座歌舞伎芝居図屏風	六曲一隻	奥村政信 (1686-1764)	享保16年 (1731)	紙本着色	51.6×162.4
29	江戸風俗図巻	一卷	宮川長春 (1682-1752)	江戸時代 (18世紀)	絹本着色	34.4×782.7
30	四季遊楽図巻	一卷	宮川長春 (1682-1752)	江戸時代 (18世紀)	絹本着色	31.0×354.5
31	吉原通り図巻	一卷	鳥文斎栄之 (1756-1829)	文化14年 (1801) 序	絹本着色	30.8×1123.4

# 浮世絵師略歴

## ◆ ひしかわもろのぶ 菱川師宣 ?～元禄7年(1694)

浮世絵の確立者で、菱川派を成しました。率直で明快な画風は江戸人に好まれ、肉筆画そして版画が大いに流行しました。代表作は見返り美人図(東京国立博物館蔵)で、師宣の描く風俗画様式は、以降江戸時代を通じて発展する浮世絵の実質的なはじまりと呼ぶにふさわしく、後世に多大の影響を及ぼしました。

## ◆ みやがわちゅうしゅん 宮川長春 天和2年(1682)～宝暦2年(1752)

浮世絵の宮川派の始祖で、吉原や江戸の人々の生活を濃厚な色彩で描く肉筆画を専門とし、版画は手がけませんでした。菱川師宣の作風を慕い、懷月堂の美人画風にも影響されて、浮世絵肉筆画の正統を継承し、その系譜は勝川春章へと連なります。

## ◆ かいげつどうあん ど 懷月堂安度 生没年不詳

江戸中期の浮世絵師で懷月堂派の初祖。肉筆を専門とし、世に懷月堂美人といわれる豪華な衣装をつけた一人立ちの遊女姿の美人画を多く描き、18世紀初頭の江戸人の豪快で闊達な気風を反映して大流行しました。懷月堂は浮世絵師の集団でその代表が安度でした。

## ◆ おくむらまさのぶ 奥村政信 貞享3年(1686)～明和元年(1764)

江戸中期の浮世絵師。浮世絵版画の発達する過程である墨摺絵から丹絵、紅絵、漆絵、紅摺絵までをすべて経験し、後に版元奥村屋を経営します。肉筆画も優れ、柔らかな線と鮮やかな配色による優美艶麗な美人画や役者絵を多く描きました。

## ◆ かつかわしゅんしょう 勝川春章 寛保3年(1743)～寛政4年(1792)

江戸中期の浮世絵師で勝川派の祖です。個性的な表情をとらえた役者絵や相撲絵で人気を得ました。晩年は肉筆画に主力を注ぎ、美人画の画系である宮川派の画法を更に進化させて気品ある美人画を描きました。葛飾北斎などの優れた門人を多く育て、浮世絵界に一大派閥を形成しました。

## ◆ ちゅうぶんさいえい し 鳥文斎栄之 宝暦6年(1756)～文政12年(1829)

江戸時期から後期の浮世絵師です。本名は細田栄之といい、旗本の長男として生まれ、絵を描きつつ仕官しましたが、早くに武士をやめ浮世絵師として錦絵など多く手がけ、ほっそりした清楚な十二等身の美人図で知られました。また栄之の描いた隅田川図巻が後桜町上皇の御文庫に納められたというエピソードも伝わっています。

## ◆ さかい ほういつ 酒井抱一 宝暦11年(1761)～文政11年(1828)

姫路藩主の子弟として生まれ、絵や俳諧を良くし、諸派の画風を学んだ後、深く尾形光琳に傾倒し江戸琳派を確立したことで知られます。浮世絵は歌川豊春に手ほどきをうけ、師の画風をよく写した作例を数点のこしています。

## ◆ かつしかほくさい 葛飾北斎 宝暦10年(1760)～嘉永2年(1849)

江戸本所(現・東京都墨田区)に生まれました。19歳で勝川春章に入門して浮世絵師としての活動をスタート。洋風画を含むさまざまな技法を貪欲に学びながら、この世界に存在するありとあらゆるものをモチーフに、旺盛な絵筆をふるいました。

## ◆ ていさいほく ば 蹄斎北馬 明和8年(1771年)～弘化元年(1844)

江戸下谷御徒町(現・東京都台東区)の御家人の家に生まれました。若くして家督を譲り、葛飾北斎に入門。同門における最も優れた絵師のひとりとして知られます。版本挿絵などの下絵を手がけつつ、数多くの肉筆画を制作しました。

## ◆ うたがわとよはる 歌川豊春 享保20年(1735)～文化11年(1814)

一説に豊後臼杵(現・大分県臼杵市)に生まれ、狩野派の画家に学んだと伝わります。30歳頃、役者絵版画で浮世絵界にデビュー。西洋の透視画法を取り入れた「浮絵」を制作しました。50代からは肉筆画の制作に力を注ぎました。

## ◆ うたがわとよひろ 歌川豊広 明和2年(1765)～文政12年(1829)

江戸に生まれ、芝片門前町(現・東京都港区)に住んだといえます。10代で歌川豊春に入門。版本の挿絵を数多く手がけました。肉筆画も少なくありません。派手さには欠けませんが、温和な画風に特徴があります。

## ◆ うたがわひろしげ 歌川広重 寛政9年(1797)～安政5年(1858)

江戸八代洲河岸(現・東京都千代田区)の定火消し役の家に生まれました。15歳の頃に歌川豊広に入門。はじめは版画による役者絵や美人画を手がけますが、30歳頃からは叙情豊かな風景画を数多く制作するようになりました。

## ◆ うたがわくにさだ 歌川国貞 天明6年(1786)～元治元年(1864)

江戸本所(現・東京都墨田区)に生まれました。10代なかばで歌川豊国に入門し、のちに三代豊国を襲名。幕末の浮世絵人気を一身に集めました。役者絵や美人画を中心に数多くの版画を残し、生涯に手がけた作品数は浮世絵師のなかで最多といわれます。